

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2690900622 | | |
| 法人名 | 株式会社サンガジャパン | | |
| 事業所名 | 観月橋グループホーム翔裕館 雅ユニット | | |
| 所在地 | 京都市伏見区向島立河原町67-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年8月18日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年10月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2690900622-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年9月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者にとって食事は、楽しみのひとつだと考え、おいしく、季節感がある食事が提供できるようにしています。また形態が変わることでグループホームでの生活が難しくならないように、食事形態も4種類用意し、住診医や歯科住診医と連携を図りながら、可能な限り住み慣れた地域で生活ができるようにしています。
委託医とも密な連携が図れることで、重度化しても住み慣れた地域や施設で生活ができるよう支援しています。近隣の包括、病院、精神科病院との連携もあります。法人内で認知症のプログラムがあり、認知症の方に日々楽しく、穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京阪観月橋駅から徒歩12分の所に2015年3月に開設された当事業所があり、2021年には本社組織の統合により、法人名をサンガジャパンとして再スタートしました。コロナ禍での様々な制約の中で、少しでも家族との関わりをふやそうと、窓越し面会の際は、同時に電話での会話も楽しめる様にしています。時には御香宮等への花見ドライブや、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の送迎車で自宅前を通ってもらったり、食材納入業者の管理栄養士とおやつ作りを楽しんだりしています。地域との交流も、チョコレート看板で道行く人を楽しませたり、利用者作品を玄関先におき、地域の子供たちに自由に取ってもらう等、出来る範囲でおこなっています。10月の「むかじま祭り」には、地域包括支援センターと協働し、他の介護事業所と共にブースを設ける予定ですが、用心のため利用者の参加は見合わせています。また、委託医と事業所の看護師等が24時間体制で連携し、この1年で3名を看取りました。中には、併設の小規模多機能型居宅介護事業所から連続利用され、当事業所で最期を迎えられた方もおられます。理念に沿って、利用者や家族、職員が「共に生きる」姿勢の見える事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 項目 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 感動介護憲章をグループとして掲げ、理念浸透を行っている。また行動指針もあり、毎日一つずつ順番に一日の目標として取り組んでいる。 | 「共に生きる」の法人理念や、5項目の感動介護憲章、それををもとに定めた職員クレド(行動指針)があり、全職員が所持している。理念に沿った法人の認知症ケアプログラムから、事業所として、「言葉よりも表情や態度に気を配る」「相手の瞳の中に写る様に目を見て伝える」等の日替わりの強化ケアプログラムを定め、当日勤務の職員はその日の目標を唱和し、業務に臨んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの影響もありなかなか地域交流が行われていませんでしたが、今年度より向島健康クラブの活動が再開され、事業所として地域交流に参加させていただいている。 | 再開されつつある向島健康クラブの活動や祭りへの参加を予定している。玄関前のチョークアートの看板で通行人を楽しませ、子供向けの折り紙や留めゴム等の手作り作品を事業所に並べ、希望者に持ち帰ってもらっている。子供110番の家としての見守り活動をおこない、地域からの認知症相談は地域包括支援センターに繋ぎ、AED設置事業所として地域の役に立ちたいと考えている。米や、行事の日の肉を地元で買っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣で困った様子の方がおられることもあり、包括には都度、報告させていただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 書面開催での実施になっています。地域の方々にも郵送で送付させていただきながら、意見などうかがっている。 | 運営推進会議は、このところ書面開催となり、近況報告のみに留まっている。従来は民生委員や地域包括支援センター職員の同席があったが、コロナ禍以降、事業所内で管理者や看護師等で開催し、議事録を関係者に届けている。家族には面会時に閲覧できるように、事務所横に置いている。 | 事前に関係者に資料を配り、問題提起をしたり、何らかのコメントを頂く等、事業所側の一方向的な報告で終わらない会議運営が望まれます。コロナ禍は大きな試練ですが、書面であっても、身近な話題を足掛かりにして、少しずつ前向きな意見を出し合える関係づくりに取り組まれるよう期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域の施設、病院が中心になり定期的に会議に参加し、情報共有や関わりをもっている。 | コロナ感染症対応や、事故報告等でのやり取りがある。伏見区事業者連絡会の案内は来るが、参加できていないので、議事録のFAXをもらっている。地域見守り隊ネットワークの一員として高齢行方不明者探索等に協力している。消防訓練で消防署員の立ち合いと指導を受けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員にはeラーニングによる視聴にて研修を実施し理解して取り組んでいる。 | 身体拘束等の適正化のための指針を整備し、3ヶ月に1回、施設長や管理者、看護師、介護リーダーとで身体拘束委員会を開催し、各ユニットの会議で伝達し、職員への周知を図っている。言葉の拘束なども会議で検証している。年2回の職員研修には、法人独自の認知症プログラムを用い、全職員にレポート提出を課している。帰宅願望の強い方には、よく話を聞いたり、近くの公園に行く等して気分転換を図っている。センサーマット使用の方は、見守り用としてケアプランにあげ、家族の了解をもらっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的にeラーニングにて研修を実施している。アンケートの記入し提出している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 年に1度ですが、研修を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書はしっかり説明させていただき、ご納得いただいた上でご入居して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 感染対策の為、面会は窓越しでの対応になっているが、ご家族にはご利用者の状況がわかるように広報や写真入りのお手紙の作成などを行っている。お電話や窓越し面会後は、ご家族にお話する機会を設けている。 | 日頃の関わりの中で本人の希望を把握し、ユニット会議で職員間で共有し、支援の統一を図っている。トイレの見守りを嫌う方には、遠方からそっと見守り、「重度化して可哀想なので無理に歩かせないでほしい」という家族の希望にも、医師等と相談して対応している。家族からは面会や病院付き添いの帰りなどに情報を得るが、利用者個々の話題が多く、運営に関する意見は出ていない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、会議を実施し管理者も入り意見や情報共有を行っている。 | 普段から話し易い環境であるが、3ヶ月に1回の施設長面談で「やりたいこと・したいことリスト」を用いて、次に取り組みたい事や勤務の希望等も聞いてもらっている。小鳥の飼育、手製ジュースの日を設ける等の案が出ている。行事は持ち回りで個々の職員が特性を発揮している。年1回、本社からの職員満足度調査があり、上司を介せず本社に意向を伝えることができる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業規則に基づいて行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症実践者研修への参加。グループ内での教育プログラムがあり、基づいて教育している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のGHの運営推進会議の出席も視野に動いていたが、コロナ感染拡大もあり、参加はできていないが、地域の会議の出席時に意見交換している。また、法人内で同業者が集まり意見交換するサービス向上委員会がある。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約前には面談の実施し、ご本人の要望を伺う機会を作っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約前に面談の実施を行い、ご家族の要望を伺う機会を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の要望を聞きながらサービス計画書を作成している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員も一緒になってイベントや時間を過ごしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 感染対策の為、なかなかご家族が関わるのが難しい中ではありますが、電話、窓越し面会の呼びかけ、ご本人とお孫様への手紙のやり取りなどさせていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご利用者の友人からの電話でのやりとりなど支援させていただいている。なじみの場所への外出はできない状況ではある中でもドライブなどいき、以前すまれていた近所など散策する機会を設けている。 | 面会や家族への近況報告の便り、広報紙「さわやか通信」の発送等で関係の継続を図っている。車で以前の住居の前を通ったり、花見ドライブに行ったりしている。カラオケ装置と一緒に懐かしのメロディーを歌ったり、以前流行したバラエティのビデオを見たりしている。塗り絵・家事・花の好きな方にも個々に合った支援をしている。特別の日に、メイクアップアーティストの資格を持つ職員が、お化粧やシールのネイルアートを施すと、女性入居者の表情が輝くと聞き取った。男性には、父の日にお鮎子にジュースを入れ、晩酌の雰囲気を楽しんでもらう等している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士がうまくかわりがもてるように職員が配慮、環境づくりを行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や看取り後も近隣でお会いするご家族もあり、ご挨拶はしてる。また、入院中も定期的にご家族、入院先には連携を図っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとり、日々の生活の中で希望や意向を聞きながら支援を行っている。またご家族にも昔のお話を伺っている。 | 入浴時の1対1の機会にリラックスして、普段話さないようなことも話してくれるので、アセスメントのよい機会と捉えている。レクリエーションは好まないの、部屋で自分の時間を持ちたい方には本人の意思を尊重して部屋で過ごしてもらい、元の自宅を見に行きたい方、郷土の饅頭が食べたい方等の要望は、ドライブやおやつ作りに反映させている。 | 認知症の方のアセスメントは支援をするうえで重要な意味を持ちますが、アセスメント表が簡潔で新入職員や第三者から本人像が見えにくい傾向があります。新しい発見なども適宜加え、アセスメント表の精度を高められるようお褒めします。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 同施設内の小規模を利用されていたご利用者もあり、小規模の職員からの情報や入居前の面談にて聞き取りを行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 看護師と連携し、ご状態にあった食事形態、支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ユニット会議内で話し合い、今後どのように対応するべきか検討し支援に反映している。 | ユニット会議での個別の検討記録や、毎月のモニタリングを参考にして詳細な介護計画を立て、家族等に説明をしている。計画は入所時から2か月後に再度見直し、その後は通常6か月ごとに更新するが、認定期間満了や状態変化があれば随時更新している。介護職員は自らの実践が計画の何番目に当たるかを確認し、支援経過に記録している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づきなどは申し送りノートや介護記録に記入し、会議の中で情報共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者の状況や要望にこたえられるように臨機応変に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染対策もあり、以前は保育園との交流会があったが、現在は中止している。医療機関などは連携をはかり安全な暮らしを楽しめる様支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時には委託医がいることは説明し、今までかかっておられたかかりつけ医を継続されるかせんたくできる旨を説明している。 | 従来の主治医に家族と通院されている方が1名あり、他の方は委託医の訪問診療を奇数週に受け、その際薬剤師も同行している。精神科には事業所が付き添い、他科受診には家族に協力を依頼している。希望の方は歯科医師の往診や歯科衛生士の口腔衛生指導を受け、訪問マッサージを受けている方もおられる。主治医と事業所看護師は24時間オンコール体制で連携している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職は週5日日勤帯で常駐していることもあり、現場に入り込んで介護職と連携し関わりをもってくれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された際はできる限り敏速にサマリーの提供を行い、地域のMSWとは連携が図りやすいよう関係構築はできている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時には重度化した際の指針、看取りの指針の説明を行っている。また、重度化していくご利用者には委託医が担当している際は、委託医からの説明を行う場を設け、ご家族にこちらでできることの再度説明やいりょうなどご納得できるように努めている。 | 「重度化した場合における対応に係る指針」や「看取り介護に関する指針」を用いて家族に説明し、同意をもらっている。看取りの分岐点で医師による家族への説明がなされ、看取りを希望されれば、状態変化に応じて看取り介護計画を更新している。WEB研修(eラーニング)のほか、主治医や看護師から都度指導を受け、現状に即した実践力を身に着けている。看取り期には家族にも面会をしていただき、逝去ののちに「足に向けて寝られませぬ」等の感謝の言葉をもらっている。この1年で3名看取っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応や委託医が担当している場合には病院との連携ができるようマニュアル作成を行っている。AEDのしよう方法などの研修もある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練の実施、備蓄品の管理を行っている。 | 年2回の消防訓練(昼夜1回ずつ)のうち1回を消防署の協力のもとで実施し、利用者を非常口に避難誘導する様子を写真と報告書に残している。訓練終了後に署員の講評を聞き、運営推進会議にも報告している。会議の委員にも参加を要請しているが今の所はない。近隣には訓練のお知らせをしている。水害想定の方針訓練では、消防署の指導により3階への避難をおこない、3階には、福祉避難所として市から支給された備蓄品(おかゆ・水等)3日分程度や毛布・土嚢等を保存している。全職員が年1回、非常災害対応のWEB研修を受けている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 行動指針にもあるように目配り心配り気配りを行い、支援を行っている。 | 接遇やプライバシーの研修はWEB研修(eラーニング)で各自研修し、研修報告書を提出している。法人の「寄り添い5ヶ条」を学び、利用者との関わり方を再認識している。また、管理者は、利用者本位に行動し支援の根拠(エビデンス)を大切にしたいと伝えている。何事も抱え込まず、「助けてほしい」と他の職員に言える環境づくりに努めている。プライバシー保護のため、居室扉の小窓にはカバーをして、中が見えないようにしている。職員の気になる言動があれば、ユニット会議で話し合っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者が話しやすい環境を作り、希望が言いやすい環境を整えている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴などは基本的に決めて動いているが、ご本人の希望をききながら日をずらすなどし希望に答えている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 女性はイベントで職員に美容師資格を保有した職員がいることでヘアメイクを施していたり、ネイルの機会もある。男性は、髭剃り等身だしなみに注意している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できるご利用者には、片付けなどを実施していただいている。また、月に一度おやつ作りの際は調理も手伝っていただいている。 | 食事業者から届くチルドのおかずを湯煎したり、だし汁を加えたり、上からとろみをつける等手を加え提供している。米は地域の農家から購入している。朝食はパン食としている。食事形態は、委託医・歯科医・看護師の協力のもとで嚥下機能テストを実施して見極め、本人に合った形状で提供している。おせち料理は法人の栄養課から購入し、行事献立は食事業者のものを利用しているが、時には近所の肉屋で購入した肉ですき焼きをすることもある。クリスマスには食事業者の調理師が作る本格的なケーキバイキングを楽しみ、寿司やピザ、ハンバーガー、フライドポテト等のテイクアウトも利用している。月1回の食事業者の管理栄養士と利用者による和・洋菓子のおやつ作りも好評で、その様子は広報紙「さわやか通信」で家族にも伝えている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材搬入会社の食事をベースに提供しているため、カロリー計算がされている、また、月に一度管理栄養士とのかかわりもあり、相談など行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施している。訪問歯科による指導などもある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご利用者の身体状況に合わせて排泄介助をさせていただき、トイレでの排泄支援を心がけている。 | 排泄チェック表を参考に、本人のしぐさから察してトイレに誘ったり、さりげなくトイレの場所を示したり、なかなかトイレから出てこない方には、声をかけて様子を窺う等している。入所前に、尿汚染や肌荒れで困っていた方が、入所後のこまめなシャワーや着替え、薬の塗布、適時の誘導により、状態が改善された例がある。日によって体調が変わり、都度介助方法を変える方もいる。夜間も極力トイレでの排泄を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便感覚の把握とともに看護師、委託医などと連携しながら便秘の予防を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日などはきめらせて頂いているが、ご本人の意向を大事にし、時間をずらす、職員を変えて対応させて頂いている。 | 週2回午前中に入浴し、日時は利用者の状態や要望に合わせている。便汚染の方には増回し、拒否の方には無理強いせず、同性介助の希望にも応じている。リラックスした雰囲気を利用者の昔の話や要望などをじっくりと聞き、日頃あまり喋べらない方もよく喋べている。季節のゆず湯や入浴剤は入浴を奨めるきっかけにもなっている。石鹸類は個人の物も使用できる。足ふきマットに個人のタオルを重ね、水虫等の感染予防をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間はあるものの、ご利用者の希望に応じて対応させて頂いている、また不眠の訴えの方にはホットミルクなど提供し安眠への促しを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師を筆頭に把握している。介護職員は用法、副作用などは看護師より注意事項として申し送りがされている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 計画書にも掲げ、ご利用者の趣味や関わりを大事にしている。また、家事などの役割もお願いしご利用者が活気ある日中をすごしていただけるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣の散歩やドライブなど行っている、コロナ禍ということもあり、なかなか外出機会が減っているのが現状。 | 希望の外出や買い物などにはまだ出かけられていないが、近くの公園への散歩や、併設事業所の車を借りて車窓ドライブをしている。向島ニュータウンや京滋バイパス辺りの桜並木を巡り、宇治の商店街や御香宮、桃山御陵などへも出かけている。コロナ禍のため買い物は家族や職員が対応している。 | |

京都府 観月橋グループホーム翔裕館 雅ユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的にはご家族購入や施設物販などで対応している。少しのお金で安心されるご利用者に対しては紛失のリスクもご家族にご理解頂き、ご本人で持参されている方もおられる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 友人などの電話にやりとり、お孫様との手紙のやり取りなど支援させていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全てバリアフリーにし車いすなどは行きかうことができるスペースを確保している。また、壁には無機質な状態を工夫しウォールステッカーなどで工夫している。 | リビングの2卓のテーブルの後に余裕を取り、廊下も広く、車椅子が行き交える。テーブルの下には、足置き台がある。横の台所から、食事作りの匂いや様子を感じとることができる。壁には敬老会用の装飾が施されているが、「掲示と展示を分ける」法人の方針で、必要以上に飾らず、壁面はすっきりしている。消毒・清掃は職員がおこない、簡易モップで廊下拭きを手伝う利用者もおられる。空気清浄機を設置し、日に2回換気もしている。ソファは立ち上がりやすく、怪我やトラブルのもとになるため、現在は置いていない。日中はリビングで自由に過ごされる方が多い。食事の時以外は利用者も全員マスクをつけ、外した際は間違えないように、名前入りのウォールポケットに入れている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間での座席は、基本的にきめているが、ご利用者の希望に応じて対応している。コロナ感染がない限り、隣ユニットへの出入りも自由にできるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 面談の際にできるだけ、自宅でしょうされていた家具など持参していただきなじみの空間ができるよう支援している。 | 居室入口壁側には利用者の名前と、紙皿に盛ったお花紙アートや、寄贈のタオルを用いた、てるてる坊主が飾ってある。ベッドや整理タンス、カーテン、空調機は備え付けで、家からは布団類や家で使っていたダイニングテーブルと椅子、家族の写真、仏壇、映画のビデオなどを持ち込み、好みの生活スタイルで過ごされている。芸能・テレビ情報雑誌や新聞の定期購読をされている方もいる。扉の小窓から室内が見えないように覆っているが、自分で剥がす方もおられる。居室同志の行き来はしていない。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | アセスメントを実施し、できることの把握を行い、安全に自立した生活がご自身でできるように支援している。 | | |